

# もくじ

|                    |    |
|--------------------|----|
| ■ 倫理（倫理 002-901）   |    |
| 1 学習の到達目標 .....    | 2  |
| 2 科目の特色 .....      | 2  |
| 3 学習の計画 .....      | 4  |
| 4 評価の方法 .....      | 27 |
| 【参考】授業の進め方と学習にあたって | 28 |

|            |   |             |
|------------|---|-------------|
| 倫理         | 単位数   | 2単位（70時間）   |
|            | 学科・学年・学級  | 〇〇科 第〇学年 〇組 |
| 使用教科書、副教材等 | 東京書籍「倫理」（倫理 002-901）、<br>「要点マスター 倫理 整理と演習」（以上、東京書籍） |             |

## 1 学習の到達目標

- ① 《「知識および技能」にかかわる目標》 古今東西の幅広い知的蓄積を通して、現代の諸課題をとらえ、より深く思索するための手がかりとなる概念や理論について理解するとともに、諸資料から、人間としてのあり方生き方にかかわる情報を調べまとめる技能を身につけるようにします。
- ② 《「思考力、判断力、表現力等」にかかわる目標》 自立した人間として他者とともにによりよく生きる自己の生き方についてより深く思索する力や、現代の倫理的諸課題を解決するために倫理に関する概念や理論などを活用して論理的に思考し、思索を深め、説明したり対話したりする力を養います。
- ③ 《「学びに向かう力、人間性等」にかかわる目標》 人間としてのあり方生き方にかかわる事象や課題について主体的に追究したり、他者とともにによりよく生きる自己を形成しようとしたりする態度を養うとともに、多面的・多角的な考察やより深い思索を通して涵養される、現代社会に生きる人間としてのあり方生き方についての自覚を深めます。

## 2 科目の特色

「倫理」は公民科の選択履修科目として設置されています。この科目は、公民科の必履修科目「公共」で学習したことを活用するとともに、古今東西の幅広い知的蓄積を通してより深く思索するための手がかりとなる多様な視点（概念や理論など）を理解し、それらを活用して、現代の倫理的諸課題を広く深く探究する活動を通して、人間としてのあり方生き方についての思索を深めていく科目です。このような科目の性格にもとづき、上記の科目の到達目標が達成できるよう、「倫理」は以下のように構成されています。

第1編「現代に生きる自己の課題と人間としてのあり方生き方」では、第1章から第3章で、人間の存在や価値にかかわる基本的な課題について、心理学の考え方、古今東西の先哲の思想、宗教や芸術の意義、さまざまな人生観・倫理観・世界観を学習します。第1編の第4章では、国際社会に生きる日本人としてのあり方生き方について、古来の日本の人々の心情と考え方や日本の先哲の思想を学習します。

その際、各章において、教科書掲載の図版やコラム、原典資料や、その他の資料の読み取りをおこなうことで、人間としてのあり方生き方や日本人としてのあり方生き方にかかわる情報を読みとる技能を身につけます。

また、第1編ではそれぞれの章ごとに学習のまとめとして、「思考と対話」の時間を設けています。「思考と対話」では、学習の内容を手がかりに倫理的な観点を明確にして、より広い視野から人間としてのあり方生き方、国際社会に主体的に生きる日本人としてのあり方生き方について、多面的・多角的に考察し、表現できるようにします。

第2編「現代の諸課題と倫理」では、第1編の学習を基盤として、現代の倫理的課題について探究学習をおこないます。この倫理的課題を、自然や科学技術に関する課題（生命、自然、科学技術）と、社会と文化に関する課題（福祉、文化と宗教、戦争と平和）として、六つの節でまとめています。各節において、主体的に問いを立て、その問いを他者と共有し、対等な探究者としてともに思索を深めながら、多面的・多角的に考察し、公正に判断して構想し、自分の考えを説明、論述できるようにします。各節の最後の部分に設定した「探究課題」がその手引きになります。

これらの学習を通じて、広い視野に立ち、グローバル化する国際社会に主体的に生きる平和で民主的な国家および社会の有為な形成者に必要な公民としての資質・能力を育成することを目指します。このような趣旨をふまえ、「倫理」は以下のように構成されています。

| 第1編 現代に生きる自己の課題と人間としてのあり方生き方 |   |  |   |
|------------------------------|---|--|---|
| 第1章 人間の心のあり方                 | 第2章 さまざまな人生観・倫理観・世界観Ⅰ   | 第3章 さまざまな人生観・倫理観・世界観Ⅱ  | 第4章 国際社会に生きる日本人としての自覚   |
| 1節 人間とは何か<br>2節 人間の心の働き      | 1節 哲学すること<br>2節 ギリシャの思想<br>3節 宗教と社会<br>4節 ユダヤ教とキリスト教<br>5節 イスラーム<br>6節 古代インドの思想と仏教<br>7節 中国の思想<br>8節 芸術 | 1節 近代と人間尊重の精神<br>2節 近代思想の展開<br>3節 人格の尊厳と人倫の思想<br>4節 社会変革の思想<br>5節 理性への疑念<br>6節 人間観の問いなおし<br>7節 他者・自然とのかかわり | 1節 日本の精神風土<br>2節 仏教と日本の思想形成<br>3節 儒教と日本の思想形成<br>4節 国学の思想<br>5節 庶民の思想<br>6節 西洋思想と日本の近代化<br>7節 現代日本における生き方の自覚 |



| 第2編 現代の諸課題と倫理 |          |          |  |  |  |
|---------------|----------|----------|--|--|--|
| 1節 生命         | 2節 自然    | 3節 科学技術  |  |  |  |
| 4節 福祉         | 5節 文化と宗教 | 6節 戦争と平和 |  |  |  |

### 3 学習の計画

|        | 単元名   | 学習項目     | 学習のねらい   | おもな学習活動   |
|--------|---|----------|--|---|
| 4<br>月 | 第1編 現代に<br>生きる自己の課<br>題と人間として<br>のあり方生き方<br>第1章 人間の<br>心のあり方<br>1節 人間とは<br>何か | 1 人間の特質  | ○人間の定義について考えたうえで、パスカルのことばを手がかりにして、「考えること」の意義について多面的・多角的に考察します。<br>○自己のあり方について、他者とのかかわりの中で問いつづけることの意義について多面的・多角的に考察します。 | ○「倫理」の学習の導入として、さまざまな人間の定義を整理して、人間の特質について多面的・多角的に考察するとともに、「考えること」の意義について、パスカルの原典資料の読解やグループでの話しあいを通じて考察を深めます。 |
|        |   | 2 青年期の課題 | ○「公共」の学習内容や、自己をふくむ青年がおかれた現在の状況をふまえ、人生における青年期の位置づけや特徴、現代社会におけるその特質について多面的・多角的に考察します。                                    | ○「公共」の学習をふり返りながら、青年期の自己形成について改めて考え、現代社会で生きていく上で青年期に求められることは何か、具体的に幅広く考え、話しあったり意見を発表したりします。                  |
|        | 2節 人間の心の働き  | 1 認知     | ○知覚、学習、記憶、推論、問題解決という、人間の知的な活動の特徴について理解することを通じて、他者とともによりよく生きる意思決定のあり方について多面的・多角的に考察します。                                 | ○知覚、学習、記憶、推論、問題解決について、心理学の基本的な用語や考え方を理解して、自分の日常の行動や生活にあてはめて考察し、共生のための意思決定に必要なことを考え、話しあったり意見を発表したりします。       |

|                            | 単元名                                  | 学習項目     | 学習のねらい  | おもな学習活動   |
|----------------------------|--------------------------------------|----------|---|---|
|                            |                                      | 2 感情と個性  | ○感情の生起や動機づけに関する心理学の考え方を理解し、人間の個性について類型論と特性論を中心に理解することを通じて、他者とともによりよく生きることができるように、自己や他者の個性について多面的・多角的に考察します。 | ○感情の生起や動機づけ、人間の個性と類型論・特性論について、心理学の基本的な用語や考え方を理解して、自分や周囲の人にあてはめて考察し、自己や他者の個性について理解を深めます。                   |
|                            |                                      | 3 発達     | ○青年期までの発達と青年期以降の発達について、人間の心の発達と他者との相互作用との関連を手がかりにして多面的・多角的に考察します。   | ○青年期までの発達と青年期以降の発達について、心理学の基本的な用語や考え方を理解して、自分の過去や将来にあてはめて考察し、他者との関係を通じて人間の心がどのように発達するか、話しあったり意見を発表したりします。 |
|                            | 思考と対話                                | 「心」をめぐって | ○第1編第1章の学習にもとづいて、自分自身の性格について理解し、人間の心の働きについて自分自身の性格の形成と関連づけて多面的・多角的に考察することを通じて、豊かな自己形成に努める意欲を高めます。           | ○性格をあらわすことばにはどのようなものがあるかや、「いい性格」とは何かについて、自分自身の性格の形成と関連づけて、理解や思索を深めます。                                     |
| 5<br>月<br>・<br>6<br>月<br>・ | 第2章 ささまざまな人生観・倫理観・世界観 I<br>1節 哲学すること | 1 人間と哲学  | ○さまざまな人生観・倫理観・世界観の学習に先立って、「哲学」の意味や「哲学すること」の意義について多面的・多角的に考察します。   | ○「哲学」の意味や、「哲学すること」の意義について、多面的・多角的に考察し、哲学することに適した問いをつくって発表したりします。  |

|        | 単元名            | 学習項目                      | 学習のねらい   | おもな学習活動  |
|--------|----------------|---------------------------|--|--|
| 7<br>月 | 2節 ギリシャ<br>の思想 | 1 哲学の誕生<br>と自然哲学          | ○ギリシャにおける哲学の誕生について、その歴史的背景をふまえて多面的・多角的に考察します。<br>○真理や存在などに着目して、自然哲学の思想に見られる自然と人間とのかかわりや、世界をとらえる知のあり方について多面的・多角的に考察します。 | ○ギリシャにおける哲学の誕生について、地理歴史科の学習内容と関連づけながら、その歴史的背景とともに理解します。<br>○自然哲学の思想に見られる自然と人間とのかかわりや、世界をとらえる知のあり方について多面的・多角的に考察して、理解したことや考えたことをまとめたり、発表したりします。 |
|        |                | 2 ソフィスト<br>とソクラテス         | ○徳、真理、正義、義務、幸福などに着目して、ソフィストの活動や思想の特徴、ソクラテスの生涯や思想について多面的・多角的に考察します。   | ○ソフィストの活動や思想の特徴、ソクラテスの生涯や思想について多面的・多角的に考察して、理解したことや考えたことをまとめたり、発表したりします。   |
|        |                | 3 プラトン—<br>理想主義の哲学        | ○真理、存在、善、正義、愛、美、徳、義務などに着目して、プラトンのイデア論や哲人政治などの思想について多面的・多角的に考察します。  | ○プラトンのイデア論や哲人政治などの思想について、現代の人間や社会にあてはめて具体的に考えるなど、多面的・多角的に考察して、理解したことや考えたことをまとめたり、発表したりします。   |
|        |                | 4 アリストテ<br>レス—現実主義<br>の哲学 | ○自然、真理、存在、幸福、徳、善、正義、義務、愛などに着目して、アリストテレスの自然観、倫理思想、社会観、政治論などについて多面的・多角的に考察します。   | ○アリストテレスの自然観、倫理思想、社会観、政治論などについて、現代の人間や社会にあてはめて具体的に考えるなど、多面的・多角的に考察して、理解したことや考えたことをまとめたり、発表したりします。  |

| 単元名           | 学習項目             | 学習のねらい  | おもな学習活動   |
|---------------|------------------|---|---|
|               | 5 ヘレニズム・ローマ時代の思想 | ○真理、存在、幸福などに着目して、エピクロス派とストア派、懐疑派と新プラトン主義の思想について多面的・多角的に考察します。   | ○エピクロス派とストア派、懐疑派と新プラトン主義の思想について、現代の人間や社会にあてはめて具体的に考えるなど、多面的・多角的に考察して、理解したことや考えたことをまとめたり、発表したりします。                   |
| 3節 宗教と社会      | 1 集団的な現象としての宗教   | ○幸福、愛、徳、善、正義、義務、真理、存在などに着目して、人生における宗教の意義や、宗教が人間や社会に与えた影響について、デュルケームなど先哲の考え方や歴史的事実を手がかりにして多面的・多角的に考察します。 | ○人生における宗教の意義や、宗教が人間や社会に与える影響について、デュルケームなど先哲の考え方や歴史的事実を手がかりにして理解し、教科書記載の資料およびその他の資料から、必要な情報を調べてまとめたり、自分の考えを発表したりします。 |
| 4節 ユダヤ教とキリスト教 | 1 『旧約聖書』とユダヤ教    | ○幸福、正義、義務、真理、存在などに着目して、古代ユダヤ教の特徴や『旧約聖書』に見られる人生観・倫理観・世界観について多面的・多角的に考察します。                               | ○古代ユダヤ教の特徴や『旧約聖書』に見られる人生観・倫理観・世界観について多面的・多角的に考察して、ユダヤ教は人間と神をどのような存在ととらえたのかなどについて、理解したことや考えたことをまとめたり、発表したりします。       |

|     | 単元名   | 学習項目             | 学習のねらい  | おもな学習活動   |
|-----|-------|------------------|---|---|
|     |       | 2 イエスの教え         | ○幸福、愛、善、正義、義務、真理などに着目して、イエスの説いた神の特徴や愛の教えについて、ギリシャ思想における愛の思想と比較したりしながら多面的・多角的に考察します。                           | ○イエスの説いた神の特徴や愛の教えについて、ギリシャ思想における愛の思想と比較したりしながら多面的・多角的に考察して、イエスの教えは人間と神をどのような存在ととらえたのかなどについて、理解したことや考えたことをまとめたり、発表したりします。                          |
|     |       | 3 キリスト教の展開       | ○幸福、愛、徳、善、正義、義務、真理、存在などに着目して、キリスト教の成立と発展についての歴史的理解にもとづいて、パウロの思想や教父哲学、スコラ哲学に見られる人生観・倫理観・世界観について多面的・多角的に考察します。  | ○パウロの思想や教父哲学、スコラ哲学に見られる人生観・倫理観・世界観について多面的・多角的に考察して、キリスト教が現在の社会でどのように受容されているかなどについて、理解したことや考えたことをまとめたり、発表したりします。                                   |
| 5 節 | イスラーム | 1 ムハンマドとイスラームの教え | ○イスラームの誕生について、ムハンマドの生涯や歴史的背景をふまえて考察します。<br>○幸福、善、正義、義務、真理、存在などに着目して、『クルアーン』に見られる人生観・倫理観・世界観について多面的・多角的に考察します。 | ○イスラームの誕生について、地理歴史科の学習内容と関連づけながら、その歴史的背景とともに理解します。<br>○『クルアーン』に見られる人生観・倫理観・世界観について多面的・多角的に考察して、ユダヤ教・キリスト教との共通点や相違点など、理解したことや考えたことをまとめたり、発表したりします。 |

|                 | 単元名 | 学習項目       | 学習のねらい  | おもな学習活動  |
|-----------------|-----|------------|---|--|
|                 |     | 2 イスラームの展開 | <p>○イスラーム世界の拡大やイスラーム文化の展開について、歴史的背景をふまえて考察します。</p> <p>○幸福、善、正義、義務などに着目して、現代におけるイスラームのあり方やムスリムの社会規範・生活規範について多面的・多角的に考察します。</p> | <p>○イスラーム世界の拡大やイスラーム文化の展開について、地理歴史科の学習内容と関連づけながら、その歴史的背景とともに理解します。</p> <p>○現代におけるイスラームのあり方やムスリムの社会規範・生活規範について多面的・多角的に考察して、理解したことや考えたことをまとめたり、発表したりします。</p> |
| 6 節 古代インドの思想と仏教 |     | 1 古代インドの思想 | <p>○幸福、善、正義、義務、真理、存在などに着目して、仏教の成立に影響を与えたバラモン教の特徴、ウパニシャッド哲学やジャイナ教に見られる人生観・倫理観・世界観について多面的・多角的に考察します。</p>                        | <p>○バラモン教の特徴、ウパニシャッド哲学やジャイナ教に見られる人生観・倫理観・世界観について多面的・多角的に考察して、現代の東洋における死生観・世界観への影響など、理解したことや考えたことをまとめたり、発表したりします。</p>                                       |
|                 |     | 2 ブッダの思想   | <p>○幸福、愛、善、正義、義務、真理、存在などに着目して、ブッダの説いた苦の認識や縁起の法、慈悲の実践について多面的・多角的に考察します。</p>  | <p>○ブッダの説いた苦の認識や縁起の法、慈悲の実践について多面的・多角的に考察して、人生における苦について四法印の教えを参考にしてどのように考えることができるかなど、理解したことや考えたことをまとめたり、発表したりします。</p>                                       |

|          | 単元名 | 学習項目       | 学習のねらい   | おもな学習活動  |
|----------|-----|------------|--|--|
|          |     | 3 仏教の展開    | <p>○部派仏教や大乘仏教の成立、仏教の伝播について、歴史的背景をふまえて多面的・多角的に考察します。</p> <p>○幸福、愛、善、正義、義務、真理、存在などに着目して、部派仏教の特徴や、大乘仏教の特徴・諸思想について多面的・多角的に考察します。</p> | <p>○部派仏教や大乘仏教の成立、仏教の伝播について、地理歴史科の学習内容と関連づけながら、その歴史的背景とともに理解します。</p> <p>○部派仏教の特徴や、大乘仏教の特徴・諸思想について多面的・多角的に考察して、理解したことや考えたことをまとめたり、発表したりします。</p>                        |
| 7節 中国の思想 |     | 1 孔子と儒家の思想 | <p>○諸子百家の代表的な思想について、歴史的背景をふまえて多面的・多角的に考察します。</p> <p>○幸福、愛、徳、善、正義、義務、真理などに着目して、孔子の思想に見られる人生観・倫理観・世界観について多面的・多角的に考察します。</p>        | <p>○諸子百家の代表的な思想について、地理歴史科や国語科の学習内容と関連づけながら、その歴史的背景とともに理解します。</p> <p>○孔子の思想に見られる人生観・倫理観・世界観について、現代の人間や社会にあてはめて具体的に考えるなど、多面的・多角的に考察して、理解したことや考えたことをまとめたり、発表したりします。</p> |
|          |     | 2 儒教の展開    | <p>○幸福、愛、徳、善、正義、義務、真理、存在などに着目して、孟子や荀子、韓非子、朱子学と陽明学の思想について多面的・多角的に考察します。</p>   | <p>○孟子や荀子、韓非子、朱子学と陽明学の思想について、現代の人間や社会にあてはめて具体的に考えるなど、多面的・多角的に考察して、理解したことや考えたことをまとめたり、発表したりします。</p>   |

| 単元名   | 学習項目            | 学習のねらい  | おもな学習活動  |
|-------|-----------------|---|--|
|       | 3 老荘思想          | ○幸福、徳、善、正義、義務、真理、存在などに着目して、老子や荘子の思想や、道家の思想の特徴について多面的・多角的に考察します。   | ○老子や荘子の思想や、道家の思想について、道家思想の特徴を儒家思想と比較して自分はどちらの立場に近いかにについて多面的・多角的に考察したりして、理解したことや考えたことをまとめたり、発表したりします。             |
| 8節 芸術 | 1 美の発見と芸術の創造・鑑賞 | ○幸福、愛、徳、真理、存在などに着目して、美を求める心や、それが人生を豊かにするものであること、芸術とは何か、芸術作品と鑑賞者の関係について、芸術家の考え方や生き方、作品を手がかりにして多面的・多角的に考察します。 | ○美を求める心や、それが人生を豊かにするものであること、芸術とは何か、芸術作品と鑑賞者の関係について、芸術家の考え方や生き方、作品を手がかりにして多面的・多角的に考察します。                          |
|       | 2 芸術と社会         | ○幸福、愛、徳、真理、存在などに着目して、芸術が人生や社会に与える影響はどのようなものかについて、イメージの支配やソーシャル・エンゲイジド・アートの実践などを手がかりにして多面的・多角的に考察します。        | ○芸術が人生や社会に与える影響はどのようなものかについて、多面的・多角的に考察します。<br>○現代において、芸術はよりよい人生や社会の実現とどのようにかかわっているか、具体例をイメージしながらまとめたり、発表したりします。 |
| 思考と対話 | 「幸福」をめぐって       | ○第1編第2章の学習にもとづいて、幸福な人生のあり方について多面的・多角的に考察することを通じて、豊かな自己形成に努める意欲を高めます。  | ○幸福な人生のあり方について、新たな問いを立てたり、第1編第2章で学んだ思想やその他の思想・資料を調べたりして、理解や思索を深めます。  |

|            | 単元名                                    | 学習項目       | 学習のねらい   | おもな学習活動   |
|------------|--|------------|--|---|
|            | 思考と対話                                  | 「愛」をめぐつて   | ○第1編第2章の学習にもとづいて、愛とは何かについて多面的・多角的に考察することを通じて、豊かな自己形成に努める意欲を高めます。   | ○愛とは何かについて、新たな問いを立てたり、みずから思想家を一人選んでその原典資料を調べたりして、理解や思索を深めます。  |
| 9月・10月・11月 | 第3章 さまざまな人生観・倫理観・世界観Ⅱ<br>1節 近代と人間尊重の精神 | 1 人間主体の時代  | ○西洋における近代化の特徴について、現代に通じる人間尊重の精神という観点から、歴史的背景をふまえて多面的・多角的に考察します。<br>○幸福、自由、正義、義務、真理、存在などに着目して、現代の価値観に影響を与えたルネサンスや宗教改革、近代科学の諸思想、モラリストの思想について多面的・多角的に考察します。 | ○西洋における近代化の特徴について、現代に通じる人間尊重の精神という観点から、地理歴史科や国語科、理科の学習内容と関連づけながら、その歴史的背景とともに理解します。<br>○ルネサンスや宗教改革、近代科学の諸思想、モラリストの思想について、その共通点や現代の社会や歴史に与えた影響について多面的・多角的に考察して、理解したことや考えたことをまとめたり、発表したりします。 |
|            | 2節 近代思想の展開                             | 1 新しい学問の方法 | ○幸福、真理、存在などに着目して、現代の価値観に影響を与えたベーコンとデカルトの思想について、両者の共通点と相違点に留意しつつ多面的・多角的に考察します。  | ○ベーコンとデカルトの思想について、両者の共通点と相違点や、現代の価値観に与えた影響について多面的・多角的に考察して、理解したことや考えたことをまとめたり、発表したりします。   |

|    | 単元名         | 学習項目         | 学習のねらい  | おもな学習活動  |
|----|-------------|--------------|---|--|
|    |             | 2 経験論と合理論の対話 | ○真理、存在などに着目して、経験論と合理論の代表的な思想について多面的・多角的に考察します。  | ○経験論と合理論の代表的な思想について理解し、自分が知っていることや普段の生活の中の出来事で、経験論や合理論で説明できることはないか、多面的・多角的に考察して、理解したことや考えたことをまとめたり、発表したりします。             |
|    |             | 3 社会契約説      | ○幸福、善、自由、正義、義務などに着目して、現代の価値観に影響を与えた社会契約説や自然法思想、啓蒙主義に関する代表的な思想について、ホッブズ、ロック、ルソーの思想の共通点と相違点に留意しつつ多面的・多角的に考察します。 | ○社会契約説や自然法思想、啓蒙主義に関する代表的な思想について、ホッブズ、ロック、ルソーの思想の共通点と相違点や、現代の社会や制度、価値観に与えた影響について多面的・多角的に考察して、理解したことや考えたことをまとめたり、発表したりします。 |
| 3節 | 人格の尊厳と人倫の思想 | 1 カント一人格の尊厳  | ○幸福、愛、善、自由、正義、義務、真理、存在などに着目して、カントの批判哲学、認識論、道徳思想、人格の尊厳の思想、理想的な社会の構想について多面的・多角的に考察します。                          | ○カントの批判哲学、認識論、道徳思想、人格の尊厳の思想、理想的な社会の構想について多面的・多角的に考察して、理解したことや考えたことをまとめたり、発表したりします。                                       |

|                | 単元名 | 学習項目             | 学習のねらい   | おもな学習活動  |
|----------------|-----|------------------|--|--|
|                |     | 2 ヘーゲル—<br>人倫の思想 | ○幸福、愛、善、自由、正義、義務、真理、存在などに着目して、ヘーゲルの弁証法、歴史観、自由と人倫の思想、社会や国家の考え方について、カントの自由や道徳に関する考え方と比較したりしながら多面的・多角的に考察します。 | ○ヘーゲルの弁証法、歴史観、自由と人倫の思想、社会や国家の考え方について、カントの自由や道徳に関する考え方との比較や、その進歩史観の問題点について多面的・多角的に考察して、理解したことや考えたことをまとめたり、発表したりします。       |
| 4節 社会変革<br>の思想 |     | 1 功利主義と<br>幸福    | ○幸福、善、自由、正義、義務などに着目して、アダム・スミス、ベンサム、J.S. ミルの倫理思想について、現代の社会生活と関連づけながら多面的・多角的に考察します。                          | ○アダム・スミス、ベンサム、J.S. ミルの倫理思想について、彼らの考える「幸福」の具体例をあげたり、現代の社会生活と関連づけてその意義を話しあったりしながら多面的・多角的に考察して、理解したことや考えたことをまとめたり、発表したりします。 |
|                |     | 2 社会主義思想         | ○幸福、善、自由、正義、義務、存在などに着目して、現代の価値観に影響を与えた社会主義思想について、現代の社会生活と関連づけながら多面的・多角的に考察します。                             | ○社会主義思想について、「疎外された労働」に関する現代の具体例をあげたり、現代の社会生活と関連づけて社会主義思想の意義を話しあったりしながら多面的・多角的に考察して、理解したことや考えたことをまとめたり、発表したりします。          |

|              | 単元名 | 学習項目              | 学習のねらい  | おもな学習活動   |
|--------------|-----|-------------------|---|---|
|              |     | 3 社会の進歩と実証的思想     | ○幸福、善、正義、真理、存在などに着目して、現代の価値観に影響を与えた実証主義や進化論、プラグマティズムの思想について、現代の社会生活と関連づけながら多面的・多角的に考察します。                                   | ○実証主義や進化論、プラグマティズムの思想について、現代の社会生活と関連づけてそれらの思想の意義を話しあったりしながら多面的・多角的に考察して、理解したことや考えたことをまとめたり、発表したりします。                        |
| 5節 理性への疑念    |     | 1 世界をとらえる知のあり方の変容 | ○幸福、愛、自由、義務、真理、存在などに着目して、キルケゴール、ニーチェ、フロイト、ベルクソンの思想を手がかりにして、近代の人間観や世界観がどのように変容したかについて多面的・多角的に考察します。                          | ○キルケゴール、ニーチェ、フロイト、ベルクソンの思想について、それら以前の西洋哲学とどのように異なるのかを話しあったりしながら多面的・多角的に考察して、理解したことや考えたことをまとめたり、発表したりします。                    |
| 6節 人間観の問いなおし |     | 1 存在への問い          | ○幸福、愛、善、自由、正義、義務、真理、存在などに着目して、フッサール、ハイデッガー、ヤスパーズ、サルトル、メルロ＝ポンティエの思想や、現象学、実存主義の考え方を手がかりにして、従来の人間観や世界観の問いなおしについて多面的・多角的に考察します。 | ○フッサール、ハイデッガー、ヤスパーズ、サルトル、メルロ＝ポンティエの思想や、現象学、実存主義の考え方について、それぞれの人間観や世界観の特徴を話しあったりしながら多面的・多角的に考察して、理解したことや考えたことをまとめたり、発表したりします。 |

|                | 単元名 | 学習項目           | 学習のねらい  | おもな学習活動  |
|----------------|-----|----------------|---|--|
|                |     | 2 新たな知の<br>枠組み | ○幸福、善、自由、正義、義務、真理、存在などに着目して、ソシュール、レヴィ＝ストロース、フーコーの思想を手がかりにして、従来の人間観や世界観の問いなおしについて多面的・多角的に考察します。                | ○ソシュール、レヴィ＝ストロース、フーコーの思想について、実存主義と構造主義の違いや、現代社会における「人を規格化するもの」について話しあったりしながら、多面的・多角的に考察して、理解したことや考えたことをまとめたり、発表したりします。                           |
|                |     | 3 現代思想の<br>展開  | ○幸福、善、自由、正義、義務、真理、存在などに着目して、ドゥルーズ、デリダ、ポストモダンの思想を手がかりにして、従来の人間観や世界観の問いなおしについて多面的・多角的に考察します。                    | ○ドゥルーズ、デリダ、ポストモダンの思想について、構造主義とその後の思想がそれまでの西洋思想とどのような点で異なるかを考えたり、自分が体験している管理社会や消費社会の特徴を話しあったりしながら、多面的・多角的に考察して、理解したことや考えたことをまとめたり、発表したりします。       |
| 7節 他者・自然とのかかわり |     | 1 他者とのか<br>かわり | ○幸福、愛、善、自由、正義、義務、真理、存在などに着目して、他者とのかかわりについて、レヴィナス、ベンヤミン、アーレント、フランクフルト学派、フェミニズムやケアの倫理の考え方を手がかりにして多面的・多角的に考察します。 | ○他者とはどのような存在か、また、私たちはどのように他者とかかわるべきか、という観点から、レヴィナス、ベンヤミン、アーレント、フランクフルト学派、フェミニズムやケアの倫理の考え方について理解し比較しながら、多面的・多角的に考察して、理解したことや考えたことをまとめたり、発表したりします。 |

| 単元名 | 学習項目          | 学習のねらい  | おもな学習活動  |
|-----|---------------|---|--|
|     | 2 言語と科学の問いなおし | ○幸福、愛、善、自由、正義、義務、真理、存在などに着目して、言語活動や科学のあり方について、ウィトゲンシュタインやポパー、クワイン、クーンの考え方を手がかりにして多面的・多角的に考察します。               | ○言語活動や科学とは何か、という観点から、ウィトゲンシュタインやポパー、クワイン、クーンの考え方について理解し比較しながら、多面的・多角的に考察して、理解したことや考えたことをまとめたり、発表したりします。                          |
|     | 3 民主社会の成熟のために | ○幸福、愛、善、自由、正義、義務などに着目して、民主社会の成熟や公共性の問題について、ロールズやセン、リベタリアニズム、コミュニタリアニズムの考え方を手がかりにして多面的・多角的に考察します。              | ○ロールズやセン、リベタリアニズム、コミュニタリアニズムの考え方を参考に、「無知のヴェール」の状態から合意されるルールや、ケイパビリティを高めるために必要な支援などについて、多面的・多角的に考察して、理解したことや考えたことをまとめたり、発表したりします。 |
|     | 4 社会や自然とのかかわり | ○幸福、愛、善、自由、正義、義務などに着目して、社会へのかかわり方や自然とのかかわり方について、マザー・テレサ、ゲーテ、シュヴァイツァー、その他の人物の社会参加の思想や自然観を手がかりにして多面的・多角的に考察します。 | ○マザー・テレサの活動やゲーテ、シュヴァイツァー、その他の人物の自然観を手がかりに、自分は社会や自然とどのようにかかわるべきかについて多面的・多角的に考察して、考えたことをまとめたり、発表したりします。                            |

|           | 単元名                                 | 学習項目        | 学習のねらい  | おもな学習活動   |
|-----------|-------------------------------------|-------------|---|---|
|           | 思考と対話                               | 「自由」をめぐって   | ○第1編第3章の学習にもとづいて、「自由に生きること」について多面的・多角的に考察することを通じて、豊かな自己形成に努める意欲を高めます。                       | ○「自由に生きること」について、新たな問いを立てたり、自由について思索した思想家の原典資料を読んだりして、理解や思索を深めます。                                    |
|           | 思考と対話                               | 「正義」をめぐって   | ○第1編第2章・第3章の学習にもとづいて、「なぜ、正しく生きべきなのか」について多面的・多角的に考察することを通じて、豊かな自己形成に努める意欲を高めます。              | ○「なぜ、正しく生きべきなのか」について、これまで学んだ思想やその他の思想・資料を活用したりして、理解や思索を深めます。  |
|           | 思考と対話                               | 「真理」をめぐって   | ○第1編第2章・第3章の学習にもとづいて、「世界のはじまり」や真理について多面的・多角的に考察することを通じて、豊かな自己形成に努める意欲を高めます。                 | ○「世界のはじまり」や真理について、これまで学んだ思想やその他の思想・資料を活用したりして、理解や思索を深めます。   |
| 12月・1月・2月 | 第4章 国際社会に生きる日本人としての自覚<br>1節 日本の精神風土 | 1 日本における自然観 | ○古来の日本人々の心情や考え方に着目して、「おのずから」の働きや、『古事記』の記述、和辻哲郎の著作の記述などを手がかりにして、日本の伝統的な自然観について多面的・多角的に考察します。 | ○日本の自然観の特質について、伝統的な行事や日常なことば、作法の背後に見いだせる自然観について話しあったりしながら、多面的・多角的に考察して、理解したことや考えたことをまとめたり、発表したりします。 |

|                | 単元名     | 学習項目        | 学習のねらい   | おもな学習活動  |
|----------------|---------|-------------|--|--|
|                |         | 2 日本における宗教観 | ○古来の日本の人々の心情や考え方に着目して、日本の伝統的な宗教観について、八百万神や「神々の共存」、「重層的文化」などの考え方を手がかりにして多面的・多角的に考察します。                    | ○日本の宗教観の特質について、伝統的な行事や日常なことば、作法の背後に見いだせる宗教観や、多様な文化を重層的に共存させている具体例について話しあったりしながら多面的・多角的に考察して、理解したことや考えたことをまとめたり、発表したりします。                           |
|                |         | 3 日本における倫理観 | ○古来の日本の人々の心情や考え方に着目して、日本の伝統的な倫理観について、清き明き心、正直、誠、いさぎよさ、やさしさなどの考え方を手がかりにして多面的・多角的に考察します。                   | ○日本の倫理観の特質について、「清き明き心」や「やさし」という倫理的伝統が他者との関係においてあらわれる具体的な態度を話しあったりしながら多面的・多角的に考察して、理解したことや考えたことをまとめたり、発表したりします。                                     |
| 2 節 仏教と日本の思想形成 | 1 仏教の受容 |             | ○古来の自然や神に対する信仰との共存に着目して、仏教思想は日本の思想形成にどのような影響を与えたのかについて、仏教の伝来と奈良仏教、平安仏教の展開、神仏習合の考え方を手がかりにして多面的・多角的に考察します。 | ○日本の仏教受容について、仏教の伝来と奈良仏教、平安仏教の展開、神仏習合の考え方を理解しながら、外来思想である仏教をどのように理解し変容させたのか、また、それが日本の思想形成にどのような影響を与えたのかについて多面的・多角的に考察して、理解したことや考えたことをまとめたり、発表したりします。 |

|                | 単元名     | 学習項目   | 学習のねらい  | おもな学習活動  |
|----------------|---------|--|---|--|
|                |         | 2 仏教の日本的展開   | ○古来の自然や神に対する信仰との共存に着目して、仏教思想は日本の思想形成にどのような影響を与えたのかについて、浄土信仰、禅、『法華経』信仰を手がかりにして多面的・多角的に考察します。   | ○仏教の日本的展開について、浄土信仰、禅、『法華経』信仰の考え方を理解しながら、外来思想である仏教をどのように理解し変容させたのか、また、それらが日本人の思想形成にどのような影響を与えたのかについて多面的・多角的に考察して、理解したことや考えたことをまとめたり、発表したりします。 |
|                |         | 3 仏教と日本文化  | ○無常観や美意識に着目して、仏教思想は日本文化にどのような影響を与えたのかについて、さまざまな古典作品や芸道・文化、評論などを手がかりにして多面的・多角的に考察します。  | ○仏教が日本文化に与えた影響について、無常観や美意識に着目して、さまざまな日本の文化・芸術の中から仏教的な考え方や感じ方のあらわれと考えられる事例や場面を探したりして、多面的・多角的に考察し、理解したことや考えたことをまとめたり、発表したりします。                 |
| 3 節 儒教と日本の思想形成 | 1 儒教の受容 | ○日本の思想形成に儒教が与えた影響について、朱子学の現実秩序の倫理や礼秩序の思想を手がかりにして多面的・多角的に考察します。 | ○日本の思想形成に儒教が与えた影響について、朱子学の現実秩序の倫理や礼秩序の思想の展開を理解しながら、その影響が現代の人間関係のどのような場面で見られるのかについて話しあったりして多面的・多角的に考察して、理解したことや考えたことをまとめたり、発表したりします。 |  |

|     | 単元名   | 学習項目        | 学習のねらい  | おもな学習活動   |
|-----|-------|-------------|---|---|
|     |       | 2 儒教の日本的展開  | ○日本の思想形成に儒教が与えた影響について、日本の陽明学や古学、古文辞学を手がかりにして多面的・多角的に考察します。              | ○日本で独自に展開した儒教思想の特徴について、日本の陽明学や古学、古文辞学を理解しながら、中国の儒教や日本の仏教の思想傾向と比較したり、日常生活の中で儒教のことばがつかわれている例をあげてみたりして多面的・多角的に考察し、理解したことや考えたことをまとめたり、発表したりします。 |
| 4 節 | 国学の思想 | 1 国学の形成と展開  | ○国学の思想がその後の日本におよぼした影響について、賀茂真淵や本居宣長、平田篤胤などの思想を手がかりにして多面的・多角的に考察します。     | ○賀茂真淵や本居宣長、平田篤胤などの思想を理解しながら、国学が見いだした古来の日本の人々の心情や、国学の思想がその後の日本におよぼした影響について多面的・多角的に考察し、理解したことや考えたことをまとめたり、発表したりします。                           |
| 5 節 | 庶民の思想 | 1 庶民の思想の広がり | ○町人や農民などの庶民が考えた諸思想について、石田梅岩や安藤昌益、二宮尊徳やその他の思想家の考え方を手がかりにして多面的・多角的に考察します。 | ○町人や農民などの庶民が考えた諸思想について、代表的な思想家の考え方を理解しながら、庶民がどのようにみずからのあり方を肯定して生きたかについて話しあったりして多面的・多角的に考察し、理解したことや考えたことをまとめたり、発表したりします。                     |

|                 | 単元名 | 学習項目       | 学習のねらい  | おもな学習活動   |
|-----------------|-----|------------|---|---|
|                 |     | 2 幕末の思想    | ○近代精神の成長へとつながった幕末の思想について、蘭学・洋学や佐久間象山、横井小楠などの考え方を手がかりにして多面的・多角的に考察します。                   | ○幕末の思想について、蘭学・洋学や佐久間象山、横井小楠などの考え方を理解しながら、彼らの考え方のどのような点が近代精神と関連するののかについて多面的・多角的に考察し、理解したことや考えたことをまとめたり、発表したりします。 |
| 6 節 西洋思想と日本の近代化 |     | 1 近代化と啓蒙思想 | ○近代日本の思想形成に影響を与えた啓蒙思想や自由民権思想について、福沢諭吉など明六社の啓蒙思想家や中江兆民、植木枝盛の思想を手がかりにして多面的・多角的に考察します。     | ○福沢諭吉など明六社の啓蒙思想家や中江兆民、植木枝盛の思想を理解しながら、同時代への影響や現代に通じる問題意識について多面的・多角的に考察し、理解したことや考えたことをまとめたり、発表したりします。             |
|                 |     | 2 キリスト教の受容 | ○近代日本におけるキリスト教の受容について、内村鑑三など代表的な近代のキリスト教者の思想を手がかりにして多面的・多角的に考察します。                      | ○代表的な近代のキリスト教者の考え方を理解しながら、同時代への影響や現代に通じる問題意識について多面的・多角的に考察し、理解したことや考えたことをまとめたり、発表したりします。                        |
|                 |     | 3 社会思想の展開  | ○近代化の過程で生じた社会問題に対応して展開された思想や運動について、国家意識を高揚する動きや社会主義、大正デモクラシーなどの思想を手がかりにして多面的・多角的に考察します。 | ○国家意識を高揚する動きや社会主義、大正デモクラシーなどの思想について理解しながら、同時代への影響や現代に通じる問題意識をあげたりして多面的・多角的に考察し、理解したことや考えたことをまとめたり、発表したりします。     |

| 単元名                | 学習項目          | 学習のねらい  | おもな学習活動  |
|--------------------|---------------|---|--|
|                    | 4 近代的な自己の追求   | ○近代的な自己のあり方に関する考え方について、ロマン主義や自然主義、夏目漱石、森鷗外、白樺派の思想や、女性解放運動を手がかりにして多面的・多角的に考察します。 | ○近代的な自己のあり方に関する考え方について、ロマン主義や自然主義、夏目漱石、森鷗外、白樺派の思想や、女性解放運動を理解しながら、同時代への影響や現代に通じる問題意識をあげたりして多面的・多角的に考察し、理解したことや考えたことをまとめたり、発表したりします。 |
|                    | 5 近代日本の創造的な思想 | ○西洋思想を主体的に摂取しつつ形成された近代日本の創造的な思想について、西田幾多郎や和辻哲郎、民俗学の思想などを手がかりにして多面的・多角的に考察します。   | ○西田幾多郎や和辻哲郎、民俗学の思想などを理解しながら、彼らの思想が独創的といわれる理由や現代に通じる問題意識をあげたりして多面的・多角的に考察し、理解したことや考えたことをまとめたり、発表したりします。                             |
| 7 節 現代日本における生き方の自覚 | 1 戦後思想の動向     | ○戦後日本における思想の動向について、戦後日本の状況や、小林秀雄や丸山真男などの思想を手がかりにして多面的・多角的に考察します。                | ○戦後日本の状況や、小林秀雄や丸山真男などの思想について理解しながら、日本の思想伝統に関して現代において自覚的に受けつぐべきものや、問いなおすべき課題について多面的・多角的に考察し、理解したことや考えたことをまとめたり、発表したりします。            |

|                       | 単元名           | 学習項目          | 学習のねらい   | おもな学習活動  |
|-----------------------|---------------|---------------|--|--|
|                       |               | 2 グローバル化と日本   | ○グローバル化した世界における日本および自分たちのあり方生き方について、高度経済成長以降の日本の状況を手がかりにして多面的・多角的に考察します。                               | ○第1編第4章の学習内容をふり返りながら、グローバル化した世界における日本および自分たちのあり方生き方について、多面的・多角的に考察し、理解したことや考えたことをまとめたり、発表したりします。           |
|                       | 思考と対話         | 「日本人の心情」をめぐって | ○第1編第4章の学習にもとづいて、日本人の心情をめぐって、別れ際の心の構えや別れことばに着目して、「おのずから」や「死」について多面的・多角的に考察することを通じて、豊かな自己形成に努める意欲を高めます。 | ○「おのずから」や「死」について、これまで学んだ思想家の考え方をまとめたり、その他の思想・資料を調べたりして、理解や思索を深めます。   |
| 2<br>月<br>・<br>3<br>月 | 第2編 現代の諸課題と倫理 | 1節 生命         | ○生命倫理に関する考え方や現代の諸課題に着目して、「生きること」の意義について多面的・多角的に考察し、公正に判断して構想し、自分の考えを説明、論述します。                          | ○今日の生命倫理や医療の問題について理解を深め、生命の誕生、老いや病、生と死の問題などについて多面的・多角的に考察し、理解したことや考えたことをまとめたり、話しあって発表したりします。               |
|                       |               | 2節 自然         | ○自然に関する考え方や現代の環境問題、環境倫理に着目して、人間と自然との調和的な共存関係の意義について多面的・多角的に考察し、公正に判断して構想し、自分の考えを説明、論述します。              | ○今日の環境倫理や環境問題について理解を深め、環境問題の解決に向けて、自分にできることや、経済活動の自由とその規制について多面的・多角的に考察し、理解したことや考えたことをまとめたり、話しあって発表したりします。 |

|  | 単元名 | 学習項目     | 学習のねらい  | おもな学習活動   |
|--|-----|----------|---|---|
|  |     | 3節 科学技術  | ○近年の情報技術の高度化に着目して、人工知能（AI）など先端科学技術の利用と人間生活や社会のあり方について多面的・多角的に考察し、公正に判断して構想し、自分の考えを説明、論述します。           | ○人工知能（AI）など先端科学技術の利用と人間生活や社会のあり方について理解を深め、情報技術の高度化による社会の変化や、そこに見られる倫理的問題などについて多面的・多角的に考察し、理解したことや考えたことをまとめたり、話しあって発表したりします。       |
|  |     | 4節 福祉    | ○ケアの倫理や協働、共生などに着目して、だれにとっても住みやすい社会の実現について多面的・多角的に考察し、公正に判断して構想し、自分の考えを説明、論述します。                       | ○今日の家族とケア労働、障害者権利条約と障害者施策、ダイバーシティとインクルージョンについて理解を深め、ケア労働の担い手やだれにとっても生きやすい社会の実現などについて多面的・多角的に考察し、理解したことや考えたことをまとめたり、話しあって発表したりします。 |
|  |     | 5節 文化と宗教 | ○文化や宗教に関するさまざまな考え方や現在の状況に着目して、さまざまな文化や宗教を尊重し、共生する生き方や社会のあり方について多面的・多角的に考察し、公正に判断して構想し、自分の考えを説明、論述します。 | ○文化の概念や、グローバル社会における宗教、多文化主義について理解を深め、異なる文化の接触による新たな文化の創造や、異質なものと共生／排除などについて多面的・多角的に考察し、理解したことや考えたことをまとめたり、話しあって発表したりします。          |

|  | 単元名 | 学習項目      | 学習のねらい   | おもな学習活動   |
|--|-----|-----------|--|---|
|  |     | 6 節 戦争と平和 | ○20 世紀以降の戦争や平和の構築、「豊かさ」の意味などに着目して、人類全体の福祉の向上という視点から、平和な世界の実現について多面的・多角的に考察し、公正に判断して構想し、自分の考えを説明、論述します。 | ○20 世紀以降の戦争や平和の構築、「豊かさ」の意味について理解を深め、戦争が起こる背景や、人類全体の福祉という観点から私たちが目指すべき「豊かさ」について多面的・多角的に考察し、理解したことや考えたことをまとめたり、話しあって発表したりします。 |

## 4 評価の方法

### (1) 評価の結果を生かす

評価は自分自身の学習の過程や成果を確認するためになされるものです。このことをしっかり確認し、不十分な点があればその後の学習の改善につなげるようにしましょう。そのためにも、返却されたテストやワークシート、レポート、自己評価などの見直しを徹底しましょう。

### (2) 評価の観点

評価にあたっては、学習で身につける力を次の三つの観点から把握します。

|               |   |
|---------------|---|
| 知識・技能         | <ul style="list-style-type: none"><li>○現代の倫理的課題をとらえ、他者とともによりよく生きる人間のあり方について自己の確立の課題として考察し、選択・判断するための手がかりとなる概念や理論について理解している。</li><li>○諸資料から、現代に生きる倫理的主体として活動するために必要となる情報を適切かつ効果的に調べまとめている。</li></ul>   |
| 思考・判断・表現      | <ul style="list-style-type: none"><li>○他者とともによりよく生きる自己の確立について広く課題を発見し、人間の存在や価値、現代の倫理的課題などについて多面的・多角的に考察し、思索を深めている。</li><li>○良識ある公民としての広い視野に立つことで、主体的かつ公正な判断をしている。</li><li>○理解したこと、考察したことなどを適切な方法で表現している。</li></ul>  |
| 主体的に学習にとりくむ態度 | <ul style="list-style-type: none"><li>○人間尊重の精神と生命に対する畏敬の念を高めており、人格形成や自己形成の確立に努める実践的意欲をもっている。</li><li>○現代の倫理的課題についての探究的な態度を身につけ、他者とともによりよく生きるあり方を主体的に探究しようとしている。</li><li>○知識および技能を獲得したり、思考力、判断力、表現力等を身につけたりすることに向けて粘り強いとりくみをおこなおうとしている。また、そのようなとりくみの中で、みずからの学習を調整しようとしている。</li></ul> |

### (3) 評価の時期と方法

ア 各学期の定期考査では、出題範囲における知識と技能の習得の状況、思考力・判断力・表現力を評価します。

イ 教科書の各節の「まとめ」や「思考と対話」のWORK、TRY、第2編の各節の「探究課題」についてのレポートやワークシートを、評価のための資料とします。レポート作成の際には、教科書の「『倫理』における探究」などを参考にしてください。

ウ 学習活動の様子や発表、討論、論述などの内容を評価のための資料とします。

エ 自己評価やふり返しシートを参考とします。

#### (4) 評定について

評定は、上記の方法で得られた評価に関する情報を総合的に判断しておこないます。

### 【参考】授業の進め方と学習にあたって

#### (1) 授業の進め方

- ア 他者とともによりよく生きる人間のあり方について、さまざまな理論や視点、人生観・倫理観・世界観の理解をはかります。
- イ 一斉授業、グループ学習、発表などの学習活動をおこない、ものごとを多面的・多角的に考察し、公正に判断する力を養います。
- ウ 資料から適切な情報を選択し、課題を追究する活動、レポートにまとめたり発表したりする活動などをおこない、課題追究の方法を身につけます。

#### (2) 学習にあたって

- ア 日常生活で気になった人間関係や言動、自分自身に関する事柄について、そのまま放っておかずに、その原因や理由、背景、影響などについて考え、同様のことを考えた人物や関連する思想、理論等を調べる姿勢をもつこと。
- イ 日ごろからメディアで報道される時事的な課題に関心をもち、調べたり論点を見いだしたりすることに努めること。
- ウ 客観的な複数の資料にもとづいて、諸課題を多面的・多角的に考察し、解決のあり方を模索する態度を身につけること。